

徳地森の子くらぶ ～ポン太の森でウィンタースクール～

平成31年1月12日(土)～13日(日)

【目的】

自然体験活動を通して自然に親しむ態度や豊かな情操を育むとともに、集団での宿泊体験を通して自立心や望ましい生活習慣を身に付ける素地を養う。また、本事業を実施し、参加者とその保護者の自然体験についての興味や関心が高まることで、体験活動の普及を推進する。

【参加者】 50名(小学校3・4年生)、法人ボランティア15名

【プログラムの内容】

1日目

- 11:10 始まりの会
- 11:30 みんなであそぼう!(アイスブレイク)
- 12:15 お弁当タイム
- 13:30 ポン太の森の冒険隊(ネイチャービンゴ)
- 19:00 室内遊び

2日目

- 9:00 外遊び
- 10:00 アウトドアクッキング(ホットドッグ・焼き芋)
- 13:20 さよならの会
- 14:00 バス乗車/終了

「始まりの会」

「みんなで遊ぼう!(アイスブレイク)」

今回の年始に開催となった森の子くらぶには、60名以上の申込みがあった。キャンプには、50名の小学3・4年生が参加した。アクティビティの中で、グループで自己紹介を行ったり、お互いに話しあったりした。この活動を通して、最初児童間やボランティアとの間にあった緊張がほぐれていった様子であった。

「ポン太の森の冒険隊(ネイチャービンゴ)」

「大丈夫」、「ありがとう」、「一緒にやろう」などのふわふわ言葉が使われる場面がたくさん見られた。

年初めのクラフト活動ということもあり、凧を作成した二人一組でお互いに言葉がけをしながら作業を進めることができた。グループの仲間と一生懸命活動して、すべてのグループがミッションクリアへ向かった。



「室内遊び・外遊び」

外遊びドッチビー大会を行い、グループごとに分かれて対戦することができた。この日初めて会った仲間とも声を掛け合い、白熱した試合展開となった。

室内遊びでは1日目に作成した凧をつどいの広場においてあげることができた。普段凧揚げする場所も限られる日常生活の中、自然の家という広大な敷地で仲間と凧揚げをすることができた。また、始めはうまく飛ばすことができなかった子供たちが、バランスを工夫して飛ばせるようになった凧を見て喜ぶ姿が見られた。



「アウトドアクッキング」 (ホットドッグ・焼き芋)

アウトドアクッキングではグループで「ホットドッグ」と「焼き芋」を作った。1日目に決めた班目標を達成するために、ふわふわことばを意識して使う班の姿を見ることができた。

前日に薪係、調理係と役割を決めて、その役割に沿って活動を進めた。そのため、与えられた役割を、一生懸命果たそうとする児童の姿が見られた。

また、仲間が困難な状況にあるとき、自分の役割だけではなく、仲間の事も考えて、お互いに声を掛け合い協力する姿が見られた。片付けにおいても自分たちの片付けを早く終えた後、会場全体の片付けへと自主的に取り組む姿を見せる班があった。

そのため、設定していた時間よりも早く終わることができた。

【参加者の声】

「ホットドッグを作り、食べたことが楽しくておいしかった」、「初めて会う人ばかりでしたが、仲良くすることができた」、「凧が上手く上がってうれしかった」、「みんなと一緒に話したり、食べたりしたことが楽しかった」などの感想をいただいた。

【成果】

今回の森の子くらぶでは、最初、円滑にグループで活動を行うことが困難な班が見られた。しかし、「ポン太の森の冒険隊(ネイチャービンゴ)」や「室内遊び・室外遊び」の活動を通して徐々に自分たちで納得して規律を作り出す姿が見られた。また、凧作りにおいて二人で行うペア活動を仕組むことで活発でない子供もお互いに声を交わすことができた。「アウトドアクッキング」ではそれぞれの役割を的確にこなし、協力して活動に取り組めた班が多く見られた。

【課題】

時間配分に課題が残った。「ポン太の森の冒険隊」のブースとして凧作りを行った際に、予想していた時間よりも多くかかってしまい、完成させることができなかった子供も見られた。